

令和6年度の取り組み評価

今後取り組むテーマ①「もっと身近に運動を」について

(逗子市健康増進・食育推進計画担当者会議における委員へのヒアリング結果)

別紙2

①

評価指標		評価方法	総合評価			文化スポーツ課			社会福祉課			国保健康課		
			評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価	
				評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用 しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会やスポーツ推進審議会を運営し、市民をはじめ、スポーツ協会、社協、青少年指導員連絡協議会、小・中学校校長会らと連携している。	4	100	介護予防事業に取り組む中で、3地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域の高齢者サロン、民間大学・企業などと連携している。	4	100	①県と連携し、アプリを活用した事業を展開。民間企業などにも周知依頼した。 ②ラジオ体操推進のため、スポーツ推進委員、民生委員などと協働した。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				スポーツの祭典で他課の取り組みを体験するブースを構えている他、特定保健指導などへのインセンティブとしてアリーナの取り組みチケットを提供している。	4	100	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（高齢介護課、国保健康課と連携）や、eスポーツの推進（文化スポーツ課と連携）などで庁内連携している。	4	100	スポーツの祭典でアプリの事業周知やラジオ体操指導を行った。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施では、高齢者サロンなどに赴き運動を促した。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				スポーツ推進審議会での意見聴取や、スポーツの祭典でのアンケート結果などから現状分析し、取り組みの参考にしている。	4	100	介護予防事業を展開する上で、要介護状況のデータを活用しているが、事業自体の分析まではできていない。	3	75	①アプリを活用した事業は、30～50代を狙い、傾向やアンケートなどを参考に企画。 ②ラジオ体操では、過去の実績から、集まりやすさを考慮して企画した。	4	100
	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				スポーツ推進審議会での意見からSNSを強化した。また、ニュースポーツ体験会（スポーツ推進員が学び、市民に伝える）を実施。想定の倍以上の人数が参加した。	4	100	介護予防教室を高齢者センターやアリーナなどで実施したり、社会福祉協議会からサロン開設などについて案内し、事業後も運動が継続されるように工夫している。	4	100	運動習慣を促すため、アプリの活用や魅力的なインセンティブを設定するなどして工夫した。予算についても県の補助事業を活用し、市の支出を抑えて実施した。	4	100
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				HPやSNSでの発信の他、チラシを学校、駅、コミュニティセンター、スポーツ推進団体などへ配布した。子どもや高齢者向けにはまだ展開の余地があると感じる。	3	75	広報や介護予防教室などで、市内の要介護状況や予防方法を発信している。	4	100	HPやSNSでの発信の他、チラシを駅や公共施設の他、他課の事業などでも配布してもらった。	4	100
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				スポーツの祭典の来場者数 R5：2,278人 R6：2,574人（+296人） R6は市民まつりと開催日が重なり、来場者の増加が見込みより増えなかった。	4	100	①介護予防教室：335人（+6人）②フレイルチェック測定会：107人（-2人）③アプリ、歩数計事業：68人（-54人）。新規事業も良い、事業数や手段の幅が広がった。	3	75	①アプリ事業の参加人数 R5：268人 R6：297人（+29人） ②ラジオ体操講座参加人数 R5：61人 R6：82人（+21人）	4	100
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				様々なイベントを通じて「スポーツに携わって」とメッセージを投げており、意図が伝わった結果、好評を得ていると感じる。	4	100	事業参加者からは「取り組みが充実していて良い」と評価されるが、どの取り組みもリピーターが多い。取り組みを知らない、参加していない層への新規開拓が課題。	3	75	①「健康意識機会になった」 R5：90.9%（回収率24.6%） R6：集計中 ②「（内容）理解した」 R5：100%（回収率68.9%） R6：97.3%（回収率89.0%）	4	100
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があつたか	4段階評価 目的達成のために 4：あつた 3：まああつた 2：あまりなかった 1：なかった				スポーツイベント参加者へ運動クラブ（うみかぜクラブ）を紹介し、継続的な運動習慣へとつながっている。	4	100	取り組み参加者へ活動を継続させる仕組みを作り、高齢者サロンやフレイルサポーターなどを担い、活動・運動の継続につながっている。	4	100	①「健康行動が改善した」 R5：78.8%（回収率24.6%） R6：集計中 ②「今後やっていけそう」 R5：97.6%（回収率68.9%） R6：97.3%（回収率89.0%）	4	100
				平均点		平均点 96.9			平均点 90.6			平均点 100		

令和6年度の取り組み評価

今後取り組むテーマ②「自分の体を知ろう」について

(逗子市健康増進・食育推進計画担当者会議における委員へのヒアリング結果)

別紙2

②

評価指標		評価方法	総合評価		市民協働課		社会教育課		子育て支援課		国保健康課									
			評価資料	自己評価	評価資料	自己評価	評価資料	自己評価	評価資料	自己評価	評価資料	自己評価								
				評価		得点		評価		得点		評価	得点	評価	得点	評価	得点			
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用 しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				食品ロス削減やエシカル消費（倫理的消費）などの推進で、国や県、消費生活センターなどと連携している。	4	100		社会教育について市民へ学習機会を提供するため、「現代的課題」「地域課題」「子どもを育てる環境づくり」に関する組織・団体と連携して講座などを実施。	4	100		市内外の医療機関や県（健康増進部門や保健所など）、民生委員や食生活改善推進団体などと連携している。	4	100		県作成媒体の活用や、民間主催のイベントへの出張（未病フェス・ピンクリボン祭り）、他課イベントへの出張など、連携・活用できた。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				取り組みの周知などについて、健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携・協力できる体制がある。	4	100		市民へ健康啓発の具体的取り組みとして国保健康課を紹介し、未病センター利用へつなげた。	4	100		保護者や子のニーズに応じて庁内他課の取り組みを紹介し、連携する体制がある。	4	100		担当者会議メンバーや関係課とイベントを相互に周知したり、啓発物品の配布協力、必要物品の共有など連携できた。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				消費生活に係る相談内容・件数についてとりまとめ、国へ報告・共有。情勢を把握している。	4	100		社会教育委員会（年4回）を開催して現状を伝え、委員から助言を得ている。また、講座毎にアンケートを取り、ニーズや改善点など分析している。	4	100		子ども子育て支援事業計画を策定し、現状分析している。また、健診結果や教室でのアンケート、個別訪問などから情報収集し分析している。	4	100		特定健診受診率、がん検診受診率、未病センターやイベント参加人数・内訳・アンケート結果から、現状把握している。	4	100
	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				健康増進・食育推進計画担当者会議を通じて、取り組みの周知先や資材の配布先が広がった。	4	100		社会教育委員会議での意見や講座のアンケート結果を元に、次年度の講座内容を調整している。	4	100		妊娠期の女性から子どもの発育・発達まで、庁内で保健師や助産師、栄養士に相談ができる体制を整えており、健診や訪問時などに周知している。	4	100		がん受診率向上のための啓発やイベント企画をし、アンケートや参加者の声から評価・改善をしている。	4	100
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				国や県から食品の適切な消費の啓発や健康食品購買にかかる注意喚起などについて発信しているが、情報が届きにくい人へ届けることが課題。	3	75		講座のテーマによって配架場所や媒体（広報紙、HP、SNS、チラシなど）を変更・追加している。	4	100		出産前の知識などを動画で公開している他、イベントなどをメルマガ配信している。また、対象の健診前には個別にショートメッセージを送り、受診勧奨している。	4	100		広く市民へ情報を届ける工夫として、広報紙、HP、市公式SNS発信、広報板、関係機関への配架依頼など様々な媒体を活用して情報発信をしている。	4	100
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				健康増進・食育推進計画担当者会議を通じて、取り組みの周知先や資材の配布先が広がった。	4	100		講座の応募について、定員から概ね75～95％の応募がある。	3	75		乳幼児健診受診率 ※3月実施予定有、未集計 90％以上の見込み 4か月児健診受診率： 1歳半健診受診率： 3歳児健診受診率：	4	100		1. 未病センターずし市役所利用者数：3月分未集計 2. 特定健診受診率(R5)：37.1％（+4.8ポイント） 3. 特定保健指導終了率(R5)：28.0％（+3.8ポイント） 4. がん検診受診率 ※1：未集計（3月実施予定有）	4	100
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				市民からの反応は見えにくい が、周知活動は引き続き広げていく。	3	75		講座アンケート結果で、「よく理解できた・理解できた」と回答した割合が、概ね90％以上いる。	4	100		適正体重や受診の重要性について、妊娠期から子の成長に応じて一貫して伝え、概ね理解されている。また、多様な相談体制を整備していることも概ね理解されている。	4	100		アンケートで、「理解できた・まあ理解できた」回答割合 ①健康栄養相談イベント：99.4％（9回 248人参加）※2 ②健康づくり出前講座：未集計（25回 3月実施予定有） ③がん予防講演会：96.0％（1回 27人参加）※2 ④オーラルケア講座：100％（1回 21人参加）※2 ⑤ツムラ漢方講座：92.9％（1回 28人参加）※2 ⑥薬と健康の講演会：100％（1回 24人参加）※2	4	100
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があつたか	4段階評価 目的達成のために 4：あつた 3：まああつた 2：あまりなかった 1：なかった				健康増進・食育推進計画担当者会議を通じて、庁内で問題を共有できる場ができた。今後、消費生活トラブル予防の観点から、連携の輪を広げていきたい。	4	100		講座アンケート結果で、「具体的に活かせる・多少は活かせそうだ」と回答した割合が、概ね90％以上いる。	4	100		適正体重維持や健診受診が一般的なものとして定着している。全数把握しているため、逸脱者や未受診者には個別フォローできている。	4	100		「(今後やっていけそう)そう思う・まあそう思う」回答割合 ①健康栄養相談イベント：97.8％ ※2 回収率 77.8％ ②健康づくり出前講座：未集計 ③がん予防講演会：96.0％ ※2 回収率 92.6％ ④オーラルケア講座：100％ ※2 回収率 81.0％ ⑤ツムラ漢方講座：92.9％ ※2 回収率 100％ ⑥薬と健康の講演会：100％ ※2 回収率 87.5％	4	100
				平均点			平均点	93.8		平均点	96.9		平均点	100.0		平均点	100.0		平均点	100.0

※1 国へ統計報告する5がん検診（胃、大腸、肺、子宮頸、乳）

今後取り組むテーマ③「望ましい食生活を実践しよう」について

③

(逗子市健康増進・食育推進計画担当者会議における委員へのヒアリング結果)

評価指標		評価方法	総合評価			経済観光課			高齢介護課			学校教育課			保育課			国保健康課		
			評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価	
				評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用 しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				小坪漁協と小学校をつないだ授業の実施や、地元の産業を市民に知ってもらう活動などを通して、商工会や関係組織・団体と連携している。	4	100	要介護高齢者の生活支援や配食サービスについて、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などと連携。民間委託業者なども積極的に活用している。	4	100	食育推進について、食育推進ネットワーク会議で市立小・中学校と連携している他、小坪漁協など市内団体と連携して体験授業などを実施している。	4	100	市立保育園の他、横須賀・三浦・逗子・葉山地域の栄養士会（はなゆずの会）、小坪漁協などと連携を取り、食育を推進している。	4	100	食生活改善推進団体、小坪漁協、神奈川県栄養士会などの団体や食育推進ネットワーク会議など、地域・学校などと連携をとり、食育を推進している。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				漁業体験を授業に取り入れるべく学校教育課と調整している他、国保健康課キャンペーンへ賞品提供するなど、連携を進めている。	4	100	配食サービス利用に至らなかった人を国保健康課の栄養相談へつなげた他、配食できない間の食事の工夫などについて連携してチラシを作り周知した。	4	100	食育推進ネットワーク会議で各校の取り組みを共有している他、健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携・協力できる体制がある。	4	100	健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携できる体制がある。保育園での食育活動を知ってもらう機会として有用である。	4	100	関連会議だけでなく、庁内担当者間での打合せなどをもち、市民に向けての食育活動を実施するための体制づくりを構築した。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				小坪漁港活性化のロードマップを策定して現状分析している他、授業や一般向け漁業体験での感想などから実施内容を振り返っている。	4	100	高齢者福祉計画を策定して現状分析している他、独居高齢者への訪問事業などからニーズを把握している。	4	100	市立小・中学校において年間の食育全体計画を定め、現状分析している。	4	100	市立保育園について、年間の食育計画を定めており、現状分析している。また、園児向けの食育体験について、保育士からフィードバックを受けている。	4	100	イベント参加人数・内訳・アンケート結果から、現状把握している。	4	100
	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				漁業体験の感想やアンケート結果に基づき、今回の内容や方法、料金設定などを検討している。	4	100	独居高齢者への訪問事業などからニーズを把握している。国保健康課の管理栄養士と連携し、望ましい食生活に関する情報発信を行っている。	4	100	各校で食育に関する取り組みを企画して実施している。	4	100	園児向けの食育体験について、保育士からのフィードバックなどから内容を検討。参加型でゲームを取り入れながら実施するなど取り組んでいる。	4	100	教室やイベントでのアンケートや参加者の声から評価・改善をしている。	4	100
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった				日々の食卓に関わる漁業を知ってもらうために、授業に漁業体験を取り入れた他、市内内外向けにも体験を行い、食卓への取り入れ方などを情報発信している。	4	100	独居高齢者やサービス利用者に対して、国保健康課の管理栄養士と連携し、望ましい食生活に関する情報発信を行っている。	4	100	児童生徒向けのおたよりや、保護者向けの『給食だより』で発信している他、試食会を実施。また、中学校給食の献立内容をSNS発信している。	4	100	保護者向けに月1回『食育だより』を発行し、望ましい食生活などについて情報発信している。	4	100	媒体の作成（チラシ等）、広報、掲示板、SNSでの発信、未病センターでの展示等、情報発信をしている。	4	100
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				市内内外向けの漁業体験は毎回好評。体験授業も他校や保育園などでやりたいと希望が出ている。	4	100	配食サービスの利用者数や一人当たりの配食数は減少傾向。自ら食事準備困難な人が対象のため、対象となる人数が減少している可能性がある。	3	75	食育推進ネットワーク会議は年3回継続実施している。食育授業などは、各学年の単元に沿って実施している。	4	100	市立保育園で管理栄養士が行う食育講座を年8回継続実施している。現在2～5歳児向けだが、今後1歳児向けにもできたら良い。	3	75	いずれもR5と同回数実施。 ①栄養改善教室：4回、80人 ②男性の健康料理洋室：37-6（24回）、36人 ③食育講演会：1回、45人 ④ヘルスメイト養成講座：R6：12回、11人	4	100
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない				漁業活動の理解が進み、体験した児童から「もっと知らせたい」として保育園へ働きかけるなど、輪が広がっている。	4	100	配食サービスは安否確認などの目的もあるため、サービスそのものや望ましい食生活の周知について、関係職員からの情報提供に留まっている。	3	75	小・中学校教諭より、「実体験する調理実習などは、児童生徒がより積極的になる」と反応があった。	4	100	食育体験や食育講座のフィードバックをもらう中で、園児の反応や理解度などを確認。体験や講座などをすると、園児の喫食率が上がる。	4	100	アンケートで、「理解できた・まあ理解できた」回答割合 ①栄養改善教室：100%（回収率100%） ②男性の健康料理洋室：未集計（3月実施予定有） ③食育講演会：97.7%（回収率100%） ④ヘルスメイト養成講座：100%（回収率100%）	4	100
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があつたか	4段階評価 目的達成のために 4：あつた 3：まああつた 2：あまりなかった 1：なかった				上記のような波及効果が出ている他、家庭で話題にしてもらうことで、親や他世代にも認識が広がり、「海業」への関心が広がっている。	4	100	配食サービスをしない年末年始などに備え、簡単なレシピを配布し、自炊や健康管理に生かせるように支援している。	3	75	短期的には測りかねるが、児童生徒の意識に根付かせるように工夫している。	3	75	保護者向けの『食育だより』を家庭で園児と読んでいる様子が見られた。また、年少時から継続的に伝えている「3色食品群を食べよう」という内容を、年長時でしっかり覚えていられる様子が見られる。	4	100	「（今後やっていけそう）そう思う・まあそう思う」回答割合 ①栄養改善教室：100%（回収率100%） ②男性の健康料理洋室：未集計（3月実施予定有） ③食育講演会：95.4%（回収率100%） ④ヘルスメイト養成講座：100%（回収率100%）	4	100
			平均点				平均点	100.0		平均点	90.6		平均点	96.9		平均点	96.9		平均点	100